津の観光 結城神社

◇しだれ梅の名所

津市の南、御殿場海岸の近くにある結城神社（宮崎吉章宮司）は、南北朝時代、後醍醐（ごだいご）天皇を奉じて「建武新政」の樹立に貢献した結城宗広公をおまつりしている。

同神社は、神苑いっぱいに咲き乱れる「しだれ梅」で有名だ。

約30年前、参拝者に楽しんでもらおうと、特徴のあるしだれ梅を全国から集めて植栽したのが始まりで、現在では、しだれ梅が約３００本、その他10種類80本が植えられている。

◇全国ランキング8位の梅苑

「日経プラス１」（日本経済新聞社）が、２００９年2月に出した「おすすめ梅の名所ランキング」では、全国90ヶ所の中から、見事8位に選ばれた。

紅・白・ピンク、色とりどりの華麗な花に、メジロの緑が映える。地面につきそうなしだれ梅を、下から見上げると、まるで花が降ってくるようだ。

例年、2月中旬から3月中旬頃の開花時を「しだれ梅まつり」と称し、県内外から多くの人が訪れ、琴、踊りの奉納（日時未定）も行われる。開花時の梅苑は、拝観料５００円（中学生以下は２００円）。

◇こま犬や社宝館も見どころ

また、本殿を守るこま犬は、日本を代表する彫刻家・北村西望作で、青銅製こま犬としては日本一の規模。社宝館（入館料１００円）には、県文化財指定の「結城神社文書」など、貴重な資料が展示されている。

お問い合わせは、電話０５９（２２８）４８０６まで。駐車場２５０台（無料）。

津の産業 春キャベツ

◇キャベツの生産県内一！

身近にあって、なくてはならい野菜のひとつ、キャベツ。

そのキャベツの県内一の生産量を誇るのが、津の南西部だ。ＪＡ三重中央の管轄の久居・一志・白山では、作付面積約百ヘクタール、年間収穫量約3千トン、２５０戸以上の生産者が、おいしいキャベツ作りに取り組んでいる。出荷先は、関西方面に7割、残りの3割が県内だそうだ。

◇中心は春キャベツ

年間収穫量の約半分は、3月末から5月末までの2ヶ月で収穫されるという。そう、いわゆる「春キャベツ」だ。丸い形で巻きがゆるいのが特徴。柔らかく、瑞々しい食感で、サラダなどの生食にピッタリ！

旧久居市が１９７３年に春キャベツ、77年に冬キャベツの指定産地を受け、盛んに栽培し、周辺の一志・白山にも広がった。水はけが良く、土が肥えているという、キャベツ作りに適した土地が多かったからだそうだ。

◇手がかかるキャベツ作り

春キャベツ作りは、秋に始まる。10月に種をまき、11月に畑へ定植。20日以内に追肥、菌核病の防除をする。

年が明けると、周りの土を柔らかく掘り返し、再追肥。それ以後も、苗の生育、土の状態に常に注意せねばならない。

3月末の収穫も、米のように機械で刈り取るわけにはいかず、一つひとつ手作業になる。

◇生産者の思い

定植間近の10月末、「一志白山キャベツ部会」（福井政徳部会長）が研修会を開くと聞き、同席させていただいた。今年度の春キャベツ栽培指針のもと、肥料や病害虫防除についてのアドバイスがなされ、集まった生産者は熱心に聞き入っていた。

同会終了後、同ＪＡの野菜育苗施設を訪ねた。5千枚の苗を前に、「根の張りもいいし、植え頃かげんやな」と福井部会長はニッコリ。「津のキャベツはおいしいと喜んでもらえるのが一番うれしい」。

この小さな苗が大きく育ち、食卓に春と笑顔を運んでくれる日が待ち遠しい。

お問い合わせは、ＪＡ三重中央営農部・電話０５９（２９３）３１００まで。